

松戸市立総合医療センター 医療連携 News



第202号 (2024.3)

編集・発行 松戸市立総合医療センター 地域連携室
〒270-2296 千葉県松戸市千駄堀993-1 電話 047-712-2511 (代)

医療機関各位 <https://www.city.matsudo.chiba.jp/hospital/>

松戸市立総合医療センター
病院長 尾形 章

軽暖の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、当院に対して一方ならぬご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

医療機関の皆様方へ毎月お送りしております「医療連携News」を是非ご高覧いただき、
また患者さんへ必要な情報を提供いただけましたら幸甚に存じます。

第202・203号で、分野毎に認定看護師のご紹介を致します。

【救急看護認定看護師】

救急看護とは「さまざまな状況において突然に生じた傷害または急激な疾病の発症や急性増悪等によって、医療を必要とする人々に対する迅速かつ適切な看護実践をいう」(日本救急看護学会 2022年)と定義されています。(日本救急看護学会HPより引用)

当院の救急看護認定看護師は、現在3名で活動しています。救急看護認定看護師として病態の緊急度・重症度を基軸に、少ない情報からアセスメントし予測性・即応性を持った対応を行い、心身の障害を最小限にとどめるために看護実践を行っています。また、危機的状況にある患者・家族が心理的な安心感を得られるよう精神的援助も行っています。

さらに、当院は1次から3次までの救急患者やプレホスピタル医療に対応しており、患者のニーズに応えるため、急変や重症外傷に対応するためのシミュレーション、緊急度判定を行うためのトリアージトレーニング・ドクターカーに同乗する看護師を養成するための同乗訓練、急変を予測・回避するための急変予測システムの周知活動などのスタッフ教育に努めています。

当院では、災害時にDMAT(災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム)として災害現場へ出動します。日本DMAT(日本国内の災害時に出動)とCLDMAT(千葉県内の災害時に対応)の隊員が医師・看護師・業務調整員が合わせて20名となりました。災害時に一人でも多くの命を救うためには、隊員のスキルアップがかかせません。そのために、災害訓練や研修会を救急看護認定看護師がマネジメントし実施しています。



【集中ケア認定看護師】

集中ケア認定看護師は、様々な病気により生命の危機状態にある患者さんとそのご家族に対して看護を行います。重症かつ集中治療を必要とする患者さんが、回復もしくは障害の程度を最小限に留め、1日でも早く日常生活に復帰できるようにケアを提供する事を役割としています。

現在、集中ケア認定看護師はPICU（小児集中治療室）とHCU（高度治療室）の2部署へ1名ずつ配属されています。子どもから大人まで幅広い年齢の重症患者さんに対して、合併症の予防・重症化の回避・早期リハビリテーションなどの回復へのサポートが主な役割です。私たちは、所属部署だけではなく、ICU（集中治療室）や一般病棟の重症患者さんに関わり、重症患者さんに接する看護師の教育にも携わっています。その他に、RST（呼吸サポートチーム）やせん妄ハイリスクケアチームとして多職種と連携して、人工呼吸器の安全管理やせん妄患者さんのケアについて医療スタッフの相談に対応しています。また、PICS（集中治療後症候群）対策の一環として、PICUから一般病棟へ移動した患者さんとそのご家族に対して、訪問することで体調や心理的な変化が起きていないかを早い段階で気づけるように介入をしています。

私たちは集中治療の一時ではなく、社会生活までを見据えて、患者さんにご家族に寄り添えるような関わりを目指しています。



【脳卒中リハビリテーション看護認定看護師】

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）の患者さんに対し、疾患の重篤化回避（疾患が悪くなることを予防する看護）やリハビリテーション看護を行っています。当院は、急性期病院であり治療が主になるためリハビリテーションの時間が短い現状があります。在宅への退院やリハビリテーション病院への転院にむけて、ベッド上での生活から離床に向けてギャッジアップ（ベッドの頭の角度を強める）患者さんの麻痺のある手足の関節を看護師が動かしたり、自分で動かせるように介入をしています。また退院後の生活やリハビリテーション病院での生活について説明をすることで、リハビリテーションへの意欲が高まるように指導をしています。

排尿ケアチームの一員としても活動をしています。排尿ケアチームは医師・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師や皮膚・排泄ケア認定看護師、理学療法士などがチームとなり、入院中に尿道カテーテルを抜去した後、尿が出ない・尿が出ても残尿がある・頻尿になるなどの症状が出ることが予測される患者さんへ病棟看護師と協力をし、適切な観察をしたり、症状のある方には導尿の継続や排尿に関わるリハビリテーションを実施して、症状が改善・回復が出来るように活動をしています。自己管理が出来る方は、自己導尿が出来るように指導もしています。転院・退院を視野に、入院中からリハビリテーションを実施できるように活動を行っています。



【認知症看護認定看護師】

馴染みのある家から入院などによる環境変化によって不安や戸惑いを抱くことは認知症に限ったことではありません。認知症のある患者さんは、記憶力の低下などから戸惑いを強く生じることがあるため、その不安や苦痛に寄り添い適切なケアを行うことで認知症の行動・心理症状を防ぐことができます。

当院は、2名の認知症看護認定看護師が在籍しています。患者さんの大切にしていることに関心を寄せて、尊厳を守れるような支援を心がけています。急性期治療を乗り越え、適切な時期に適切な場所で生活できるよう、多職種で共働して退院支援につとめています。患者さんが安心して安全に過ごせることが、大事なご家族の安心につながり笑顔の連鎖が起きますように、心の交流を大切にケアしています。

活動内容は、多職種による認知症ケアチームで、日々の認知症ケアの質向上に取り組みながら、認知症ケアリンクナースの活躍を支援しています。また地域で生活される方々に、住み慣れた家や望む場所で暮らせるように、地域に出向いて講義など院内外での活動も行っています。



【乳がん看護認定看護師】

乳がん看護認定看護師は、乳がんと診断され治療を受けている方への精神的支援や、治療選択における意思決定支援・治療に伴うセルフケア支援・ボディイメージの変化への支援・リンパ浮腫への対応などを行っています。

また、乳がんに限らず、がん治療をされている方の治療に伴う不安を軽減し、生じた問題が解決できるように、看護相談を行っています。身体やこころのつらさを和らげ、“そのひとらしい”生活が送れるように多職種と協働し支援を行っています。

乳がんの集学的治療と身体の変化



【がん化学療法看護認定看護師】

がん化学療法看護認定看護師は、がん薬物療法を行う患者さんが確実・安心・安全に治療を受けられるように、看護実践をしています。

がん治療は近年、従来の抗がん剤だけでなく分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害剤等があり治療内容、副作用も多岐にわたります。治療目的も、治癒から症状緩和に至るまであらゆるがん腫に対して幅広く行われており、かつ新しい薬剤や指示療法の進歩などにより、進行・再発がん患者さんの治療としても行われる機会が増えています。その為がん治療においてがん薬物療法は、ますます重要な位置を示すようになってきています。患者さん・ご家族が最善の選択ができるよう、がんの罹患やがん薬物療法に対する不安の緩和や治療方針の意思決定支援をしています。治療を安全に受けられることができるように副作用症状のマネジメントを行い、患者さんがセルフケアを実践できるようにご家族を含めた介入をしています。

がん薬物療法を受ける患者さんが普段と変わらない生活を送る事ができ、治療や薬剤・副作用に対する不安が軽減できるように病棟や外来で、看護相談を行っています。主治医・化学療法内科医師・歯科口腔外科・薬剤師・ソーシャルワーカー・管理栄養士緩和ケアチームなど多職種と連携を図り、患者さんが自分らしい生活を送れるように支援をしています。また、日々進化するがん治療に院内全体で対応できるよう研修会を企画して、知識・技術などの普及活動や院外の医療従事者対象の研修会・患者さん向けの講演会なども開催をしています。



看護相談で使用されるウィッグやパンフレット



【緩和ケア認定看護師】

緩和ケア認定看護師では、がんの患者さんとそのご家族の心身のつらい症状を和らげ、患者さん・ご家族のQOLの維持・向上に寄与することを目的として活動しています。院内において毎週金曜日に緩和ケアチームのメンバーとして、カンファレンスや部署ラウンドに参加しています。また、緩和ケアの理念を広め、看護師のスキルアップを図るため毎月のリンクナース会でミニレクチャーを実施しています。2年後の緩和ケア病棟新設に向け全職員を対象とした緩和ケア研修会を11回シリーズで2か月毎に行っており、患者さん・ご家族が最後までその人らしい人生を歩めるような病棟になるように、多職種と協働していきたいと考えています。

近年の医療の発展や長寿・高齢社会の到来と共に緩和ケアは、がんの患者さんに限らず慢性呼吸器疾患・心不全・その他人生の最終段階にある人々へも対象が広がっています。

実習に来た看護学生から、緩和ケア病棟を見学したことでマイナスイメージからプラスのイメージに変わったという多くの感想がありました。医療従事者・市民の方もマイナスイメージがあれば、プラスのイメージに変えていけるように、活動をしていきたいと思えます。



当院ホームページにおけるバナー広告募集について

令和6年2月1日より連携登録医にご登録の医療機関につきましても、当院のホームページにバナー広告を掲載いただけるようになりました。掲載ご希望の場合は、ホームページにて詳細をご確認ください。



臨時休診等お知らせ (2024年2月13日現在)

3月 医師の休診		
泌尿器科	前原医師	1日(金)
	竹内医師	4日(月)、25日(月)、27日(水)
整形外科	小島医師	4日(月)、5日(火)
	渡辺医師	28日(木)
循環器内科	ペースメーカー外来	8日(金)
	堀医師	13日(水)
血液内科	山崎医師	8日(金)
小児科	鈴木医師	14日(木)、15日(金)
	大林医師	14日(木)
アレルギー・リウマチ科	高橋医師	19日(火)
外科	守安医師	22日(金)
消化器内科	渡部医師	29日(金)
3月 医師の代診		
小児脳神経外科	宮川医師→佐々木医師	1日(金)
耳鼻いんこう科	磯山医師→福井医師	14日(木)、21日(木)
4月 医師の休診		
整形外科	渡辺医師	9日(火) 午前
小児科	大林医師	11日(木)